



 小・中学校教職員向け訪問プログラム
「KiDS Project」
導入の手引き



「KiDS Project」とは？



1型糖尿病の子どもをサポートし、学校に通う子どもたちに健康的なライフスタイルを啓発するため、国際糖尿病連合(IDF)と国際小児思春期糖尿病学会(ISPAD)、サノフィ・グループが2013年9月に「KiDS Project」を立ち上げました。学校の環境は、糖尿病を正しく管理し、糖尿病の子どものすこやかな毎日を保護する上で極めて重要です。

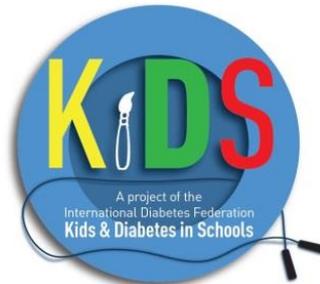


日本では、公益社団法人 日本糖尿病協会とサノフィ株式会社が協同し、訪問プログラムと充実した情報資材を通して、

- ① **糖尿病をもつ子どものよりよい学校環境をサポートすること**
- ② **青年期における2型糖尿病の予防に貢献すること**
を目的に活動しています。

「KiDS Project」の目的

学校で1型糖尿病に対する認識を高め、糖尿病をもつ子どもによりよい学校環境をサポート



2型糖尿病の予防に効果的な生活習慣を提案し、青年期における2型糖尿病の予防に貢献



糖尿病の正しい理解が促進され、糖尿病をもつ子どもの自信につながる環境の醸成をめざします。

「糖尿病」とは？

「糖尿病」とは、「インスリン」というホルモンの量が不足したり、働きが悪くなることにより、血液中のブドウ糖（血糖）が多くなりすぎた状態（高血糖状態）が長く続く病気です。

糖尿病には、大きく分けて1型と2型の2種類の病型があります。日本では、全糖尿病患者の約95%が「2型糖尿病」といわれるタイプです。

1型糖尿病

すい臓のβ細胞が破壊され、インスリンがほとんど分泌できなくなるタイプです。子どもや若い人に多くみられますが、中高年にもみとめられます。

糖尿病は乳幼児を含め、どの年齢の子どもにも発症する可能性があります。

1型糖尿病はとつぜん発症することが多く、診断が遅れると生命を脅かしかねません。

2型糖尿病

インスリンの分泌量が不足したり、働きが悪くなるタイプです。おもに40歳以降にみられますが、若年発症も増加しています。

子どもの2型糖尿病患者は世界中で増えています。

2型糖尿病は症状が現れないか、あっても軽い症状であるため、見つけるのが難しいタイプとなっています。

1型糖尿病の生徒にとって必要なこと

定期的な血糖値をチェックする必要がある

インスリンの注射を安全な場所で決められた回数、打つ必要がある

血糖値が低くなることもあり（低血糖症）、管理が必要である

決められた食事以外にも軽食をとる必要がある場合もある

いつでも自由に水が飲め、トイレに行けるようにしておく必要がある

適切な時間に昼食をとり、食事を終える時間を十分に取る必要がある



**正しい対応を心がけていれば、日常生活はもちろんのこと、
体育の授業やその他の課外活動（遠足・キャンプ・旅行）に他の生徒と同じように参加できます。
正しく理解した上で、生徒を信じ、見守ることが大切です。**

2型糖尿病の生徒にとって必要なこと

定期的な血糖値を測定する必要がある場合もある

インスリンやその他の薬を使用する場合もある

定期的に運動する必要がある

摂取する糖質や総カロリーを管理する必要がある

いつでも自由に水が飲め、トイレに行けるようにしておく必要がある



**2型糖尿病を放置してしまい、正しい対応を行わないと、
網膜の損傷や腎疾患、末梢神経の障害などにつながる可能性があります。**

学校における糖尿病の正しい理解の必要性

糖尿病は、正しく管理すれば他の生徒と変わらず学校生活を送ることができます

日本では、糖尿病に対する教職員の皆様の理解が広がりつつある一方、一部では糖尿病を持つ子どもの学校環境整備が遅れている現状があります。特に日本人の小児期における1型糖尿病発症は稀であるため、1型糖尿病の子どもの中には、糖尿病の正しい理解が進んでいないと感じたり、就職の際に不採用に繋がったと考える人がいます。

- 授業中、低血糖で保健室へ行きたいと先生に伝えても、我慢してほしいと言われる
- 体調が悪いとき、目に見えないので、叱りを受けたり、友達にわかってもらえないことがある
- マラソン大会及び遠足、体育など保護者の立会いを拒否したら、他の学校を勧められた

※日本糖尿病協会「1型糖尿病患者児の就園・就学に関するアンケート」より抜粋

また、青年期における2型糖尿病を予防するためにも、健康的な生活を送ることの必要性を学校現場において正しく理解することが重要です。



糖尿病の児童・生徒のすこやかな毎日を保護するためには、学校が重要な役割を果たします。

「KiDS Project」小・中学校教職員様向け訪問プログラム

小・中学校の先生を対象とした“訪問型”プログラムです

KiDS Projectの特徴

日本全国の学校へ伺います

講師は糖尿病の専門医

- ・糖尿病に精通した専門医が、糖尿病に関する正しい知識をお伝えします

インスリンメンター*による体験談

- ・糖尿病患者の方が実際に直面した現状の問題など、体験談を紹介します

* 日本糖尿病協会は、2015年より患者が患者を支援するピアサポートの取り組みとして、インスリンメンター制度を展開しています。
インスリンメンターは、自らの経験をもとに、後輩患児のサポートや社会への糖尿病啓発を行います。

充実した内容の情報ツール

- ・「教師」「子ども」「一般の保護者」「糖尿病の子を持つ保護者」それぞれの視点から糖尿病について学ぶことができるKiDS Projectオリジナルの「学校用糖尿病情報パック」をはじめ、さまざまな情報ツールを使用します。
- ・1型、2型それぞれの糖尿病の基礎知識はもちろんのこと、教師として知っていただきたいことや、糖尿病を持つ子どもの学校での管理に関するガイドラインをわかりやすく説明しています。



「KiDS Project」小・中学校教職員向け訪問プログラム案

- 時期：随時 ※日程はご相談ください
- 場所：貴校 ※講師が貴校に伺い訪問プログラムを実施させていただきます
- 対象：全国の小・中学校 ※幼稚園、保育所、養護教諭を養成する大学、教育委員会の方はご相談ください
- 時間：約70分程度
※開催時間および所要時間は貴校のご都合に合わせて調整いたしますので、お気軽にご相談ください
- 定員：なし ※教職員の皆様にご参加いただけます
- 料金：無料

<KiDS Projectタイムスケジュール> ※一例となります

5分	開会の挨拶と趣旨説明	司会より
30分	糖尿病に関するご説明	糖尿病専門医より
20分	インスリンメンターによる体験談	1型糖尿病患者より
10分	質疑応答・意見交換	登壇者全員
5分	アンケート記入	
	閉会の挨拶	司会より

約70分

「KiDS Project」訪問プログラムの様子



<参加者の声>



糖尿病の生徒を特別扱いする必要は無く、本人の希望に添って協力することが重要だと学びました。



糖尿病だからと身構えていたが、生徒を信じて見守れば良いと知ることが出来たので、少し肩の力が抜けました。



教師として、自分の不安を糖尿病の生徒に押し付けないことが大切だと感じました。



生徒に対する対応の仕方など学ぶことが多くありました。今後もより積極的に学んでいこうと思います。

「KiDS Project」小・中学校教職員向け訪問プログラムのお申し込み・お問い合わせ

訪問プログラムのお申し込みやお問い合わせにつきましては、
お気軽に下記へお問い合わせください。



公益社団法人 日本糖尿病協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 麹町セントラルビル8F

担当 : 堀田

TEL : 03-3514-1721

FAX : 03-3514-1725

MAIL : office@nittokyo.or.jp

※受付時間 : 9:00~17:00

「日本糖尿病協会」および「サノフィ株式会社」について

公益社団法人 日本糖尿病協会



日本糖尿病協会は、糖尿病を克服し国民の健康の増進に寄与することを目的に、

- ・「正しい知識の啓発」
- ・「患者・家族の療養支援」
- ・「調査研究」
- ・「国際交流」

などの事業を行う公益社団法人です。患者さん、医療者、市民、企業が会員として活動しています。

サノフィ株式会社



サノフィは、グローバルヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。

日本においては、「日本の健康と笑顔に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになる」というビジョンの実現に向けて、患者中心志向に基づき、医薬品等の開発・製造・販売を行っています。